

# 枚方市 小中学生1人1台にタブレット配布

吉野理事長(右)と伏見市長

コロナ不安が広がる中、枚方市は、第2波を想定した取り組みを開始。6月から教室内での授業を1日平均2時間く3時間程度、リアルタイムでオンライン配信していたが、7月1日から本格的にスタート。市内全ての市立小中学生(約3万1000人)および教員に、「1人1台」のタブレットを今年度中に配布する。(中学3年生は9月末までに完了)。

タブレットとは、スマホとパソコンのよい部分を併せ持った機器で、オンライン学習の「核」となる。また、インターネット環境がない家庭



へは、希望者にタブレット端末を貸し出す。約1000人を対象に、なかでも来年中学校に進学する小学6年生と高校受験を控えた中学3年生には、優先的に貸し出していく。

オンライン学習は、病気や不登校などの子どもにとっての学習支援にもなる。校内では、

授業配信用のカメラやマイク、Wi-Fi環境の整備、無線LAN工事といったハード環境の整備が着々と進んでいる。

**枚方信用金庫が  
プログラミング教材  
を寄付**

枚方信用金庫は、このたび、市内小学校での「情報活用能力」の育成に役立ててほしいと、プログラミング教育教材等を市に寄付した。7月20日、市から同金庫の吉野敬昌理事長に感謝状が贈呈された。教材は、各小学校に貸与して活用される。